

公表

事業所における自己評価総括表 (児童発達支援)

○事業所名	パズル		
○保護者評価実施期間	2024年12月10日		2024年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2024年12月10日		2024年12月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	聴覚障害に特化した支援の提供ができています。 職員に手話ができる人が多く、また手話ができなくても、ほかの方法でコミュニケーションを取るよう支援している。 また、希望者には言語訓練を提供して、言語訓練の結果を普段の支援にも取り入れている。	児童の言語レベルに合わせて、心地いい会話から始めている。 児童が「わからない」「知らない」「できない」を言いやすいように心理的に安心できる声掛けを職員全員で心がけている。	会話の層を深めていく支援に向けて職員のスキルアップや専門職員を雇用する。
2	児童が施設に来ることを楽しんでいる	児童の感情を大切にしている、「児童」ではなく一人の人として対等に接している。 「できない」のではなく「まだ、できない」「わからない」のではなく「まだ、わからない」など、成長に向けた努力を大切にしている声掛けをしている。 結果だけでなく努力や過程に注目して、児童が自ら積極的に取り組めるように配慮している。	児童の行動や感情の背景にある「自分に対するイメージ」や「他人に対するイメージ」「自分の人生の見通し」などをスタッフが理解し、児童が自分自身に心地よくあれるよう接していく。 また、そのための知識を職員が身につけていく。
3	公文式学習を公文教育研究会と協力して普段の支援に取り入れている。	「楽に、さくさくできる」ように教材を選定している、自分にも「できる」ことや「わかる」ことの楽しさを公文の実施時に感じてもらえるように意図的な声掛けをしている。 また、随時公文教材の見直しを行い個々の学力に合った教材にて個別で公文を実施している。	学習時の個人の特性やコミュニケーション方法に合わせた対応のさらなる強化を行う。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流ができていない。	主に受け入れている障がい児が、遠方から来るので地域との交流がしにくい。 また、職員の出勤の場所が異なることと利用者さん毎の開始・終了時間に大きく差があることが重なり時間の調整などがしにくい。	事前に予定を組んだり、保護者様に送迎を依頼するなどをして負担が偏らない方法での交流を模索する。
2	保護者会などの交流会がしにくい。	主に受け入れている障がい児が、遠方から来るので保護者同士の交流がしにくい。	手話教室や食事会などをろう学校の予定に合わせて計画することで保護者様が遠方から来ることの負担を減らす。
3	学校・保育園・学童・他の児童発達支援事業所との連携が取れていない。	当施設が設立したばかりなので連携がとても難しい。 行政面での困難もあることや、保護者様が聴覚障害をお持ちで伝達等に困難さがある。	相談支援事業所に連携や担当者会議を依頼し、当施設が保護者様と他施設との伝達に関して力を入れていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果 (児童発達支援)

事業所名	パズル
------	-----

公表日 12月26日(木)

利用児童数

13

回収数

9部

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6				・活動報告に写真が添付されており、日々の活動を含めて施設の広さなどがわかりやすい。	・今後も継続していく予定。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	5	1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6					
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5			1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5			1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5			1		
11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3		2	1	・普段の交流の範囲が同学校の子供達と限られているため、多方面に交流が広がるとう嬉しい。	・地域の保育園や施設、自治体等と合同のイベントなどを行い、地域住民と交流できる場を増やしていけるように準備をする。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2		1	3	・家族(親)が受けられる研修等の機会があれば情報が欲しい。	・保護者参加が可能な研修や勉強会を施設で実施して保護者の情報交換の場としても活用する予定。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	4	2			・(保護者自身が)手話がわからないことが多い。	・施設からの発信だけでなく、保護者さんからも家庭での状況や日々の変化を共有してもらえるようにアセスメントの機会を増やす。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5	1				
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6				・自分の予定が変更することが多く、行けなかったりするので分からない ・保護者交流があっても手話が全然できなくて施設のスタッフが間に入ってくれとありがたい。		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1		3	2		・保護者様に対して周知を行い、当施設が保護者様の相談や申し入れを気軽にできる場であることを伝えていく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6				・急な通所予定が入ると激しく拒否するが実際に行くを楽しんでいる。	・急な通所予定時は、前日等に事前に利用があることを児童に伝えておく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6				・日曜日でも施設に行くと言っているくらい、楽しみにしている。	・これからも利用を楽しみにしてもらえるように、スタッフ一同精いっぱい頑張っていきたいと思う。
	29	事業所の支援に満足していますか。	6					

公表	事業所における自己評価結果 (児童発達支援)
----	------------------------

事業所名	パズル		公表日 2024年12月26日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	△			・乳児や幼児の割合が多いのでスタッフを増やして支援時の安全性を高める。 また、外出イベントを行い地域との交流を増やしていくためにも体制に必要な人員以上に積極的に増やす。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・日常的に接する物に名前を付け、知らせている。 ・視覚支援している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・活動や人数によって乳児、幼児と過ごす環境を分けお互いが楽しめる環境にしている。 ・年齢に応じた活動がしやすく部屋を分けて活動することもある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	△		・勤務時間が様々であるため、全体としての話し合いは少ないが、PDCAに務められるようミーティングなどを活用している。 また、ミーティングや朝礼の内容は記録に残し参照を促している。 ・PDCAを知らない、初めて聞いた。	・PDCAなどのビジネススキルを知らないスタッフがが多いので、PCやビジネススキルの研修等も行っていき、運営面をより円滑にし支援に力を入れていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	△			・実施を検討している。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			

× 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・役割分担し、専門的知識を備えた職員が他分野から活動（イベント）を考案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・当日の子どもの発達段階に応じて活動内容の調整や考案を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・気づいた点は表に記入し、共有に努めている。	・随時、共有や検討が出来る体制が取れている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	/			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	・公園に行っている	・地域の子ども向けの行事に参加して、交流を図っていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	△			・手話教室や聴覚障害についての研修を実施する際に保護者様の参加もできるように調整する。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	×			・研修や保護者に向けた研修会や勉強会を検討し、その際に食事会も同時に行い、保護者同士の交流を促す。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			・月に一度避難訓練を実施している。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	△			・必要な研修の回数以上に、虐待についての研修を設ける。また、虐待の「行為」のみの研修ではなく虐待を受けた人の「感じ方」や自分についてのイメージなど、心理面にも着目して、虐待を理解していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	△			・身体拘束が必要だと思われる児童の保護者様には、事前に同意得ている。 ・道路の飛び出しなど、明らかに危険な時に限り身体拘束を行うことを周知している。 ・身体拘束を起こった場合は記録済み